

さんらくえん通信

第8号

発行責任者:鈴木常元 編集責任者:田村匡彦 編集:下野三楽園編集委員会

下野三楽園恒例参加行事

やれば出来るを自信に! 児童文化祭

二月六日高根沢町民ホールで、児童文化祭が行われました。県内の児童養護施設で暮らす子ども達が集まり、書道や絵画、工作など様々な作品を施設ごとに展示、また、歌やダンスや劇などを発表することを毎年行っています。

下野三楽園は、和太鼓の演奏を行いました。皆それぞれ元気に懸命に演奏を行っていました。大勢の方々の前で演奏することは、とても緊張したと思います。

やれば出来ることを各々の自信にしてほしいと思った良い一日でした。(石川忠)



いずれも力作ぞろいです!!

児童文化祭でぼくたちは、たいこの発表をしました。最初は、きんちょうしたけど、他の発表を見ていたら、きんちょうがほぐれました。たいこのえんそうは、じょうずにできました。他の施設の発表で、一番おもしろかったのは、『かさごじそう・あかつきバージョン』です。一体のおじそうさんだけちがう服をきせられているところが、おもしろかったです。来年の児童文化祭もまた行きたいです。

小6 H・S



下野三楽園が初めて太鼓発表を行ったのは、平成十五年度児童文化祭でした。その時、「三楽太鼓」と「太鼓ばやし」を一カ月余り練習しての発表でしたが、子ども達のエネルギーで庄巻の初舞台となりました。

それにより、『さんらく太鼓』が結成され、今では全員が小学1年生から太鼓に親しんでいます。中には、腕前を磨く実力派もあり、今後も堂々とした演技を魅せてくれることでしょう。(川俣)

高橋豪信指導員

園長 田村匡彦

長野・善光寺に林豪信(旧姓高橋)という大僧正がいた。この人の名を知ったのは、芳賀町に住んでいる私の知人、稲川昇司さんからである。昭和31年5月4日、6年の歳月をかけて制作された大谷・平和観音の開眼供養が厳かに行われた際、喜びと願いを込めて歌を独唱した人で、お坊さんらしくないお坊さんであった。

歌とともにピアノ演奏も得意とした。戦時中青森・八戸で過ごした体験と内省が園の子をいとおしく感じさせたのかもしれない。明るく、子ども達からもおもしろいので好かれていたという。下野三楽園での指導員の仕事を稲川さんは彼から引き継いだ。

下野三楽園の歴史で今井徳順、人見貞開の名はあまりにも有名である。そして、他にも記憶に留めておくべき多くの先達とその名を連ねている。

三楽園施設整備をめぐる

児童養護施設下野三楽園が目指すもの

間もなく施設の全面的改築工事が竣工いたします。ご期待に添えたいと今回の「見える建設」に総力を注ぎ込みました。下野三楽園に巨額の建設資金を与えて下さった県議会、行政、団体、個人の皆さまに、全職員を代表して感謝申し上げます。

この間、私たちは「見えない建設」にも同じように意を注ぎました。先行き不透明な社会にあって、下野三楽園が30年、50年、そして100年先を展望し、子どもたちとともに目指すものを端的な言葉で言い表すことを考え、それを3つの言葉で表現することにしました。

3つの言葉とは、慈悲、智慧、勇猛です。一見難しそうに思われるかも知れませんが、それでも、じひ・ちえ・ゆつみようと声に出して読んでまいりますと案外簡単です。しかしその言葉の持つ意味と力は、深遠です。

これをわたしたちに示してくれた当法人の鈴木常元理事長による解説を、皆様ご来園の折にお渡し出来るよう準備いたします。

下野三楽園はこれから、この3つの言葉を掲げて子どもたちと歩んで行く決意であることをお伝えします。更に、子どもたちを通して見える多くの苦しみを抱えた社会の人たちにも伝え、心の豊かさを一緒に実現して

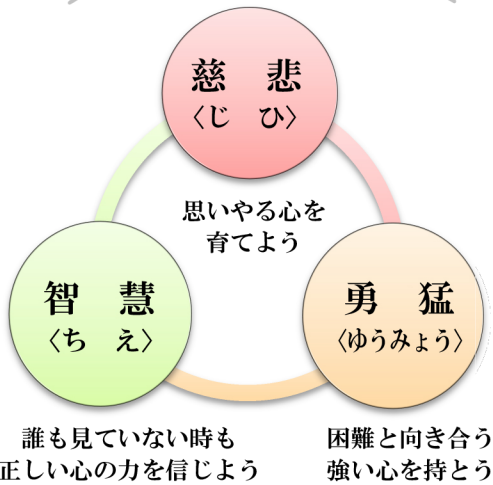
参りたいと思えます。知識としての言葉に留まらせることなく、生きる力としての言葉としたいと願っています。

重ねて、本園の「平成二十二年度施設整備」へお寄せいただいた皆様の御支援に対し、心からの感謝を申し上げます。新装なった園に是非お越し下さい。
(園長 田村記)



平成 23 年 2 月末現在の下野三楽園

下野三楽園 養育 3つの柱



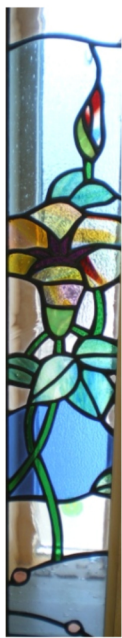
ステンドグラス

春夏秋冬を表すステンドグラスが「一隅を照らす」「和顔愛語」のプレートで結ばれ、生命(いのち)を表現しています。子育て地蔵と篠井のリンゴのステンドグラスが左右に並び生きる(姿)を表現しています。

新しい下野三楽園の建物に使われているこれらのステンドグラスは宇都宮で活躍している高崎洋子さんの作品で、ご本人は「今回制作していて、とても楽しかった」と話してくれました。

この装飾を施す企画は、輪王寺信徒会、輪王寺光輪会、輪王寺親融会の皆さん、宇都宮ベンチャークラブ、清水建設、そして園サポーターの砂川利江さんからのご協力と支援があって実現しました。「生命を大切に、しっかり生きなさい」との心が子ども達に伝わりますように。

(園長 田村記)



4つの検討班で三楽園の未来図を描く

下野三楽園では、22年度施設整備事業に伴い、昨年4月に4つの運営管理システム検討班を設置、定員40名施設としてのスタートに向けた準備を一年に亘り行いました。



パソコン導入検討班 班長 岩田友子

私たちパソコン導入検討班は、新年度パソコンシステムの導入に向けて、この一年検討してきました。

まずはパソコンの操作練習から始め、システムを導入している施設を訪問し実態調査を行い、さらに業者を呼んでデモンストレーションを実施しました。

私たちは、システム導入により、職員の負担軽減、ペーパーレス等を思い描いていましたが、実態は職員への負担があり、ペーパーレスにはならないなど問題事項が多数浮上しました。これらの事を踏まえ、まずはLANの整備を行い、ワードやエクセルでの書類の共有化を目指し、パソコンでの処理能力を高めることを当面の目標として新年度から実施していきます。

新施設落成式準備班 班長 小山博

当班は、西宮児童指導員、氏家、坂本両保育士、相澤心理士、稲田先生の6名で構成され、平成22年度4月に活動を開始しました。内容は①施設案内②パンフレット③関連書の作成です。

工程表作成の後、資料収集と随時に児童の生活、新旧建物のスナップ写真撮影を確認しました。施設案内に関しては、大項目を4点、小項目を各12~16点に決定して、各項目を業務担当で分担しあい、協議をして最終稿としました。パンフレットについては、全体に“明るく見やすい”を方針としました。収集した幾つかのパンフレットを参照にしながらも従来の本園のものも生かしたレイアウトを目指しています。新年度完成です。

食育検討班 班長 斎藤晴美

食育検討班では、来年度につなげていく大切なテーマとして、「食」についての話し合いを行ってきました。その中で、今年度何か出来るかを考え、各居室での炊飯とみそ汁作りの試行を行いました。生活の中に取り入れた「初めての試行」は大変だったのではないのでしょうか。居室担当の先生方には協力していただきありがとうございました。今後は、試行アンケート結果を踏まえて、職員みんなで園独自の『食育』を考えていけたらいいなと思います。

当検討班では、新施設のオーダーメイドのテーブル、ベンチタイプのイス、食器棚のスタイルなども考え、取り入れてもらえました。気に入ってもらえましたでしょうか？小舎制施設の歴史を引き継ぎ、楽しい食事の実現を目指します。

規則規程見直し班 班長 高橋英夫

ドキュメント（文書）を辞書で引くと「文字で書き記したもの」とあり、あらゆる文字媒体がこの中に含まれることがわかります。情報化社会に移行しつつある現代でも、紙が依然、情報媒体の中心です。

文書管理＝情報管理であることを認識しつつ、5名の精鋭での検討班が4月からスタートし、約月1回の検討会議を重ねましたが、約100年の歴史がある下野三楽園の残された文書は想像以上に奥が深く、従来の規程と今後求められるであろう規程との組み合わせに時間がかかりました。

さらに皆の意見を聞きながら、だれもが管理しやすく使いやすいものができるように努力いたします。

向春の三楽園フォトブック

児童文化祭司会



児童文化祭では、3人の園児が司会を担当、落着いて上手にできました。

新施設の現場見学会

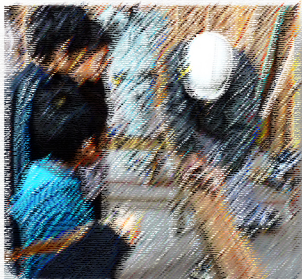


新しい施設の園児向け現場見学会では、プロの職人さんによるカンナ削りや釘の打ち方、のこぎりの使い方なども教えてもらいました。みんな興味津々です。

太鼓講習



太鼓の宿泊講習では、2つのチームと合同練習を行い、腕を磨きました。



漆黒の闇に明かりが浮かぶ夜の三楽園は、なんとも幻想的です。



心理の部屋から

相澤心理職

たとえ共に暮らしていなくても、子どもの中には親の存在が深く根づいています。普段はやんちゃすぎる子どもたちも、眠りながら涙をこぼしたり、会えない人を想う曲に深く共感したり、ホームドラマに真剣に見入ったりする姿からその切実さを感じます。

子どもたちはそれぞれの想いを抱え、日々生活していますが、ときに抱えきれなくなり、無意識に周囲を困らせたり、自分を傷つけるような行動を表します。私の役割の一つはそのメッセージに耳をすませること、子ども自身が安心して伝えることができるよう手助けをすることだと思います。

心の深淵に向かう道のりは長いですが、子どもたちの生きる姿に教えられながら、進んでいきたいと思えます。



入所状況 3月1日現在（暫定定員60）

	男	女	計
幼児	3	4	7
小学生	9	8	17
中学生	4	4	8
高校生	4	5	9
計	20	21	41

私
今ここに生きている私は
自分であって他人ではない
今うれいと思た自分 悲しい自分
苦しい自分 楽しい自分 怒った自分
泣く自分 笑う自分 美しいと思う自分
幸せと感じる自分
一人しかいな かけがえのない自分…
今自分と考えるのは私しかいな
なぜなら 私は自分自身だから…

日光山輪王寺 今井昌英

「人にはそれぞれ役割役割がある。今この時、この瞬間、そのお役目を、精一杯務めさせていただく」と律し、「人生に無駄なことなど何一つない」と踏ん張り、辛いときは、「まず飯を食え。そして、空を見る」と背中を押す。いずれも私を支える言葉。そして「大丈夫」で前に進む。(Y)



発行元：
社会福祉法人 下野三楽園

〒321-2105 栃木県宇都宮市下小池町 194 番地
Tel : 028-669-2131 Fax : 028-669-2241
E-mail : shimotsuke-sanrakuen@nifty.com